資料１

「徳島県総合教育会議」について

１　目　的

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」の施行(平成27年4月1日)に基づき、すべての地方公共団体に「総合教育会議」を設置することが義務づけられた。

「総合教育会議」については、知事と教育委員会が十分な意思疎通を図り、地域の教育の課題やあるべき姿を共有して、より一層民意を反映した教育行政の推進を図ることを目的としている。

２　会議の構成及び位置づけ

（１）構成員
知事及び教育委員

（２）位置づけ
知事と教育委員会という対等な執行機関同士の協議・調整の場であり、地方自治法上の附属機関には該当しない。

（３）会議の招集
知事が招集する。また，教育委員会は協議する必要があると思料するときは、協議すべき具体的事項を知事に示して、招集を求めることができる。

（４）会議での決定事項
知事及び教育委員会は、総合教育会議で協議・調整し、合意した方針の下に、それぞれが所管する事務を執行する。

３　総合教育会議において「協議」する事項

（１）大綱の策定に関する協議

（２）教育の条件整備、その他地域の実情に応じた教育、学術及び文化の振興に関する等重点的に講ずべき施策

（３）児童・生徒等の生命・身体の保護等緊急の場合に講ずべき措置

資料２

「徳島教育大綱（仮称）」について

１　趣　旨

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」において、地方公共団体の長（知事）は、教育基本法第17条第１項に規定する基本的な方針を参酌し、その地域の実情に応じ、県の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱を定めるものとされたことから、本県においても、「徳島教育大綱（仮称）」を策定する。

２　基本的方針

教育基本法に基づき策定された国の「教育振興基本計画」における基本的な方針を参酌した上で、本県の実情に応じ、今後において、知事部局と教育委員会の連携により推進する必要がある施策の方向性を「大綱」として定める。

３　期　間

平成２７年度から平成３０年度までの４年間

４　策定時期

平成２７年秋頃

５　これまでの取組み

（１）基本的な考え方

地方創生を成し遂げる人材の育成に向け、「徳島ならでは」の大綱を策定

（２）県民の声を反映

地域の実情に応じた「徳島ならでは」の大綱とするため、総合教育会議の議論に加え、様々な手法を活用し、県民の皆様や教育現場の意見を幅広く聴取し、大綱に反映していく。

○県民の声を集める

・「地方創生“挙県一致”協議会委員」からの意見募集
・パブリックコメントによる意見募集
・ＳＮＳ(Facebook：フェイスブック)による意見募集
・新未来「創造」とくしま行動計画及びvs東京「とくしま回帰」総合戦略策定時に県民から寄せられた意見のリユース

○生の声を直接聞く

第２回会議において、本県への移住者や教育現場の取組み、若手県職員からプレゼンテーション方式で教育に関する意見を聴取した。

資料 3

総合教育会議における主な意見

【第1回総合教育会議】

(1) 地方創生の視点から教育を考える

・徳島ならではの大綱を取りまとめていく。まさにこれが地方創生。
・教育だけという狭い考えではなく、社会情勢に応じて教育も変わっていく必要がある。
・国を再生する最後のチャンス。これは教育にかかっている。
・県民の生の意見をしっかりと反映する必要がある。

(2) キャリア教育の重要性

・専門高校のあり方を検討するとともに、個性や目標に応じたキャリアパスについても積極的に支援していく必要がある。
・大学に行かせて終わりではなく、最終出口をしっかりと見た上での進路指導をすべき。
・主権者教育、高校からでは遅い。徳島の将来を考えるようになれば、政治にも興味を持つのではないか。

(3) 教育予算の有効活用、経営感覚の必要性

・全教職員がコスト意識を高め、新たな経営感覚を持って子どもたちに向き合うことが必要。
・教職員の給与自体が教育費だという意識が必要。
・教育予算を増やして、成果を出し、存在意義を高める方法もあるのではないか。

(4) 未来志向、時代の先を見越した教育の推進

・社会の動きをしっかりと見て、未来志向で行くべき。もっと先読みをする必要がある。
・時代の先を見越し、社会の変化、動きに対して的確に対応していく教育現場であって欲しい。

(5) 未来を担う人材を育成する教員の養成

・教える力、愛情が大事であり、学力至上主義を打ち破るべき。
・一般市民の感覚が、教育現場に反映されていないことが多いのではないか。
・教職員が生徒に興味を持って、とことん向き合うことが教育の基本。

(6) 子どもたちが具体的に夢を持つこと、夢を語れることの大切さ

・徳島の未来を担う子どもたちを育成していく必要がある。
・頑張りを導き出すのが夢。大きな目標を持って、そこに向けて努力するという環境をしっかりと作っていく必要がある。
・将来何になりたいかだけでなく、何をしたいかということが重要。
・子どもたちが自分を好きになる力が弱くなっている。
・教員が自信を取り戻すさないと子どもたちは自信を持てないし、夢を語れない。

(7) グローバル人材の育成

・徳島の中で一番でなく、目標を高いところに持って欲しい。世界がある。
・目指すは世界、教育現場の教職員が情熱を持って伝えて欲しい。

(8) 学校とともに家庭、地域の果たす役割の重要性

・学校と家庭の両方が、子どもたちに夢を見させてあげるように努力をしていくべき。
・家庭教育は大事。全ての責任が学校にある訳ではない。
・欧米では、地域が子どもを育てるということがある。地域を挙げて教育を考えるという場の醸成が必要。
・学校の状況を踏まえた上で、文化など学校教育を取り巻く状況も盛り込む必要がある。

(9) 教育におけるセーフティネットの構築

・貧困の連鎖への対応として、幼児教育にもっと目を向けていく必要がある。暖かみが欲しい。

(10) 特別支援教育における専門性の充実

・特別支援教育が重要。支援学校以外の教職員も、もっと専門性を身に付けてもらいたい。そのための仕組みが必要。

資料4

「地方創生"挙県一致"協議会」における主な意見

平成27年7月7日に開催されました「地方創生"挙県一致"協議会」及びその後のアンケートにより、地方創生を成し遂げる人材の育成を行うための教育について、各種御意見及び御提言をいただきました。その主なものについては、次のとおりです。

人格形成や心の醸成を図る教育の必要性

○自立心や人間らしさをもてる情操教育が将来の地方創生を担う人材育成に必要。
○人間社会の根幹をなすものを幼少期から教えていくことが大事。
○正規の学習科目に加え、家族を愛し、隣人を愛し、学友を愛する心の醸成・人格形成が図られる教育が必要。
○心を育む教育が大切。幼稚園・小学校では、おもてなしの心を教えることが重要。
●学校におけるいじめ自殺問題があとを絶たない状況が続いている。助け合う心をはぐくむことが必要。
●あいさつは人を磨く基本、コミュニケーションの基本であり、教育の基本である。
（全県あいさつ運動展開、県外者(お遍路さん、旅行者）へのさわやかな挨拶の実践）

教育環境面の充実

○今ある高校は残し、統合しないという視点をもたないと子どもがいなくなり、地方創生はできない。田舎はなくなってしまう。
○国立大学は大学改革加速期間。生物資源産業学部の新設など、まさしく地方創生をキーワードに改革を進めている。
○小中一貫や中高一貫、選択できる教育環境づくりが重要。
発達障がい児は、様々な小中学校に通っており、その子たちにも充実した教育を受けられる体制整備が必要。また、不登校の生徒が学ぶことのできる環境整備が重要。
○那賀高校の森林クリエイト科は、非常にいい話。そういったものが複数できてくることで、その後の大学とか、地元に帰ることにつながるのではないか。
○森林クリエイト科、鳴門渦潮スポーツ科学科のように、特色を生かした「徳島ならでは」の学科を作っていくことにより、徳島で教育を受けたいという人が増える。全体的な学力・体力アップだけでなく、魅力ある教育が必要。
○大学を出た人が地域に戻ってこられる仕組みが必要。ある年齢に達したら、子どもがその地域で学校に行かれないから、家族で引っ越し、空洞化が起こる。
○南海トラフ巨大地震に備え、四国初の防災学科を作ってもらいたい。
○ニートや不登校の子どもたちは、社会だけでなく、学校からも排除され、非常に孤立している。その人たちを支援している団体と連携してバックアップすることが必要。
○中学校では、グローバルな視点を学ぶことが必要。牟岐での英語村、こういう徳島ならではの考え方を拡げていくのが大事。
●教師がもっと企業の中身を知り、子どもたちを良い就職に導くため、「教師に対するキャリアアップ教育」が必要。
●社会人の競争の厳しさ、一般常識の必要性を子どもに教えるため、教師を育てる必要がある。

●神山や上勝に高校の分校を作り、農業体験や伝統文化を学び多様な人間とふれあうことにより個性を育んでいく教育が重要である。
●受験勉強中心ではなく，自分の個性を生かせるような幅広いカリキュラムを高校で実践すべき
●非行少年・引きこもり・いじめに向けた居場所づくりが必要ではないか。
●全国に名を知られるようになった企業や上勝の葉っぱビジネス，ＣＧやアニメの第一人者の企業，このようなところと連携し「徳島版キッザニア」のような体験教育を行うことで将来とくしま回帰が加速される。
●自然を受け入れる教育、自然を感じる教育、あるいは体感的、体験的な教育を大胆に取り入れることを提案いたします。学習指導要領に即した簡易な実験体験でも「実験教材キッド」を用いるのではなく、身の回りにある道具を用いるなど、工夫を凝らすことが肝要かと思います。そのために教諭からの提案を求め、優れた取り組みを全県的に普及するなど行政的な支　援を拡充させることも必要であると思います。
●文化系の学部を志望する高校生を県内にとどめておくためにもオーソドックスな人文科学系学部（法学部・経済学部など）が必要である。
●高校野球や大学野球で全国的に通用するチーム作りをめざす。最終的には、そこで育った選手の受け皿として都市対抗野球に出場できるぐらいの社会人野球チームを阿南市に置く。
●どんな子どもでも主役となれる様々な舞台を提供し、個性を活かす教育が必要である。
●子どもが個性を発揮するため、地域や教育に残る古い習慣を見直すことが必要だ。
●先生も研修活動による資質向上、学校で招いた講師等との交流により得た知識等の習熟が重要。
●グローバルな視点を持つため、多様な価値観の理解や言語、特に英語教育に関して、充実が必要。
●障がいのある子ももちろん、子ども達のきらりと光る個性を見出し、育て、それぞれが活躍できると思う気持ちを抱かせることができるような教育をして欲しい。
●中・高時代から「将来は、技術者・職人(マイスター)を目指す」（いわゆる手に職を付ける）という教育と受入体制の充実がもっと必要。
（社会や教育機関の受入体制の充実、ドイツのマイスター制度のような制度構築、父兄の理解促進）
●情報化社会に対応するため、情報活用力を高め、情報の科学的理解を深め、情報社会に参画する態度の育成を進めて欲しい。
●グローバルに対応できる人材を育成していくことについては、ＡＬＴ派遣等を通じて進めてもらいたい。

徳島に誇りを持てる教育

○今の子どもたちは、自分たちの町を知らなすぎる。もっと自分たちの町を教える時間が必要。そして、町に誇りを持てるようになることが重要。
○ふるさとを愛する心を教育の現場でどう醸成するのかが大事。民話の伝達など教育の小さな積み重ねが地方創生に繋がっていくのでないか。
○あまりに県内のことを知らなすぎる。もっと文化面で誇りうるものがあることを子どもの時代に教え、徳島をもっと好きになってもらいたい。徳島で働きたいという気持ちが子どものころから生まれるように、徳島を自慢できるよう取り組んでいただきたい。
○教育は子どもたちだけでなくて、全体だと思う。生涯教育もあるので視野を広げて取り組めば、地方創生に繋がる。
●自分の街・郷土や暮らしを愛する心を育てる教育が重要。
●地元に対する正しい知識、誇れる面を教育することで、大学進学のため県外に出て行った人が徳島に戻ってくることに加え、他県で知り合った知人に徳島の良さを知ってもらう徳島親善大使として活躍できる。

●愛郷心を培うため、徳島県についての歴史・文化・自然その他の優れた特徴を、学ぶことを提案します。
●単に教育力を充実させるとか、学力を向上させるとかではなく、「郷土教育」を充実させることが地方創生に繋がる。
●地元の魅力やすばらしさを体得し、「地域を自慢し誇りに思う」教育を行うべきである。

地域における教育

○これまでは、知識を詰め込む教育だったが、知っていることを行動に表せるような教育をして欲しい。特に地域で地域を守っていく取組み、小さい頃からそういう体験を積み重ねていけるような教育をして欲しい。
○限られた予算の中で教職員の待遇も含めていかに実効的に教育に取り組むか。また、与えられた予算だけでなく、企業も含め、全体で教育を考え、地域で育てることが重要。
○富田中学校では空き教室で竹とんぼ等を教えている。シニア世代との交流により、子どもたちが学ぶことも多い。
●少子化社会において、学校、家庭、地域近隣の住民が学校運営に関わる制度を充実し、教育問題を地域問題として受け止めることで、教育問題を誰もが主体的に考えていくという契機になる。
●高齢者の持つ知識、経験、人間力を子どもに伝えることで、学力だけでなく人間力を鍛える教育が実践できる。
●学校と家庭、地域が集える場としての開放的活用及び地域交流の中心拠点とすべき。
●家庭教育を推進するため、学校やＰＴＡ組織等を活用し、多くの親と子等が集う「子ども養育術セミナーの開催」が必要。
●家庭や学校、社会＝地域にあって、幼き頃より「働く喜びを体得させる」教育を行うべきである。
●「地元のことをもっと知る会」の開催し、地元で活躍する方々の情熱を子どもに伝える。
●将来を担う子どもたちには、大きな可能性があるので、子ども自身が自分の個性を知る機会を創出及び学校や家庭や地域の全体で、本人の適性をどんどん伸ばしていけるような土台を作って欲しい。

社会から学ぶ

○一人一人のやる気と能力が重要。高校生に起業のおもしろみを感じてもらうなど、働くことがおもしろいという気持ちを醸成する教育を推進していただきたい。
○労使ともに基本的なルールを知らないことが多い。働くということの意義とルールを教育の現場で十分に教えていくことが必要。
○労働意欲・労働の喜びを与えられる教育が重要。
○自分と地域、自分と社会との関連性を学ぶ活動が重要。「フィールドワークは徳島」にというキャッチフレーズを掲げ、県内のみならず、県外の学生も呼び込むため、フィールドワークパスポートを発行してはどうか。
○教育がどのように将来や現場に役立っているかを知るために現場に行く機会を増やして欲しい。また徳島への愛を育てるための教育を実践して欲しい。
○正式の教科の中に遊びを入れて欲しい。子どもは遊びの中から学び取ることが非常に多い。
○０歳児の「赤ちゃんとママが先生」という授業を行っており、その中で家庭を作る、妊娠出産に夢を持てる命の授業が非常に大事と感じている。
○成功した社長等、徳島県出身の著名人から学ぶなど、子どもが夢を持てる教育が必要。
●社会人として生きていくために必要な一般常識を持った人を育てる教育が重要。
●NPOやPTAなど校外講師を活用し、子どもが社会で自分の力で生きて行ける教育を実践すべき。

●中高一貫教育を通じて学問的にも、精神的にも人間力のベースを構築していく教育
（農業や林業･漁業体験を通じて、自然との共生や徳島の伝統･文化・芸能を学ぶ）
●世界を身近に感じるためにブロードバンドを活用し、世界一流の人材による講演を英語の授業に取り入れてみてはどうか。
●絵画や演劇音楽などホンモノにふれる、体験を重視した教育をして欲しい。
●NHKの番組で有名人が母校を訪ねる「ようこそ先輩」にように成功した大人の体験を聞く機会をテレビ番組のような形で広めていくと今の子どもに伝わりやすいと思います。
●保育所や保育園へ実習、又は赤ちゃん授業をすすめ、赤ちゃんとのふれあいにより、子どものお世話をしてみたいなど、結婚子育てへの夢だけでなく、保育士への夢をもってもらいたい。
●教育を家庭教育、学校教育、社会教育など、統括的に進めるため、県内有識者をこれまでの発想にはなかった分野からも参集することで、学校教育、学校内でのいじめ問題を含めた人権教育、グローバル・イノベーションといった教育の諸課題と周辺問題を県の施策として繁栄させることが可能となる。
●県内の企業や大学、研究機関等と連携、児童・生徒に先端的な科学・技術体験や様々な就業体験を行う機会を提供、研究者や職業人との交流を通して、職業に必要な資質や能力等について学び、将来の職業に対する夢をはぐくむチャレンジ体験型教育を実施する。
●子どもの成長段階に応じて、小学校・中学校・高校から高等教育機関までの間に、「徳島県の魅力」「徳島県の企業」を知ってもらい、「徳島県を好き」になってもらい、「徳島県で働きたい」という気持ちを持ってもらいたい。
●働くことの大切さとそれぞれが守らなければならない基本的なルールを学校の授業の中で段階的に教えていくことが重要
●ペーパーテストの競争のみでなく､教師､親とももっと広い視点と長いスパンで子どもの人生を考えるべき､一流選手の体験型授業等が効果的。
●学校教育では、必須科目の勉強に加え、地域の自然や歴史文化、生活の知恵、地域主産業や社会貢献などを教えるため､様々な講師（人生の達人を招き、生きた学習プログラムの構築）活用すべきである。
●「世界で活躍する徳島県出身者の先輩のお話を聞きたい会」の開催し､失敗談や乗り越えた方法も聞くことで将来の夢を抱きやすくなる。また､この講演等をネットを活用し、県内の学校へ配信するとともに､講演等については､教材としても活用できるのではないか。
●知識教育だけでなく、起業をバーチャルで行う授業、ビジネスプランを作成する授業のように、「自ら考え、行動する」を養うことの出来る起業教育を推進する。
●企業、農業、林業､水産業などの現場見学､職場体験を充実し、企業活動、農業等を身近な者として感じてもらい、将来の地元就職意欲を醸成する。
●キャリア教育については､子どもたちの「生きる力」を育成していく中で､働くことについての関心や意欲を醸成する必要がある。職場体験､職場見学を充実してもらいたい。

教育に関する県民の方の意見(vs東京「とくしま回帰」総合戦略)

資料5－1

計画等名	意見聴取方法	意見内容
「vs東京『とくしま回帰』総合戦略	アイディアパブリックコメント	○「都市部との教育格差をなくす」ため，ＩＣＴやタブレットを活用して、都市部の講師の講義を双方向型で受けられるようにする。
		○「全国一の光ファイバー網を生かした、徳島ならではの特色ある人材を育成する」 ・小学生の教育現場へ、一人一台のタブレット端末の採用 ・高校生に「ITパスポート」など資格取得を推奨し、モラル教育を充実化 ・優れた通信環境を幼少期から教育現場で体感し、将来のデジタル・デバイドの抑制を図る 情報技術に優れた人材の育成により、サテライト・オフィス等の誘致推進、地元人材の雇用の場の確保等、産学官民が有機的に機能した徳島の特色あふれる「地方創生」となる。
		○徳島県がICTの情報通信技術を活用して「遠隔地学校教育」の促進を行う。
		○徳島県が各地域の小学校区を単位にして「幼保連携型認定こども園」を増やす。
		○廃校を利用した全国私立大や専門学校を含む付属小中高校・大学・専門学校の誘致。特に県西部、南部、県央部の駅前誘致。 ○既存大学や新規に誘致による芸術学部創設。美術、映像、アニメ、建築、音楽、舞踊、染色等の学部学科の創設で、県内活性化と四国における芸術の中心となる。 ○コンパクトシティ化推進のため、高校の県内駅前への移設推進。 ○県内史跡の発掘、整備の加速化と県民が誇り持てる郷土史作成。県内の高校や大学に多くの海外留学生が入学してもらえるような宿舎整備。
		○徳島回帰を進めるには，郷土愛を育てる ・小学生は、地域の人たちとゴミ拾い，ゴミの多い場所には子供たちが看板作成。 ・中学生には、地域の農林水産業をサポートしてもらう。 ・高校生には、藍染め、大谷焼、秋祭り等地方文化の伝統を守ってもらう。 ・大学生には、小、中、高校生のリーダーとなり、地域の産業や伝統を守り受け継いでいく人間を育てる。
		○徳島県が「徳島の教育力」の強化を行う。 ・神山町と上勝町でのICTの情報通信技術を活用してのテレビ会議システムによる双方向性オンライン塾の「遠隔地教育」の取り組み。 ・鳴門教育大学の大学の敷地内に鳴門教育大学附属高等学校の開校。 ・徳島県立城南高等学校を東京都立日比谷高等学校、埼玉県立浦和高等学校、千葉県立千葉高等学校と同等の全国屈指の公立の進学高校にする。 ・徳島県が慶応義塾徳島中学校及び慶応義塾徳島高等学校を誘致する。 ・鳴門高校、阿波高校、脇町高校に「理数科」の復活を行う。 ・徳島県立徳島北高等学校を徳島県立徳島国際高等学校にして「外国語教育」の強化を行う。
	パブリックコメント	○新しい人の流れづくりを行うため、学生・少年児童（小中高校生、大学専門学校生、趣味・スポーツの少年団体）達と県外、国外の人々との交流を県として推進、助成していく事が重要、各学校は各々の特徴を生かして交流を先方学校と行うよう、積極化するように望みたい。ー学友（ガクトモ）の輪を広げようー
		○徳島県が徳島大学本部事務局の協力を得て、徳島大学生物資源産業学部と城西高校、小松島西高校勝浦校、吉野川高校、三好高校との間で有機的な「高大農業教育連携」が形成できるようにする。
		○「男女がともに仕事と家庭を両立できる社会」の実現に向けた意識啓発 ・伝統的な性別役割分担意識を解消するため、女性も仕事を続け、社会に貢献し、男性も家事・育児を分担する「新しい家族のあり方」について、初等教育の段階から教育を行うことが重要である。
		○徳島県が文部科学省に要望して鳴門教育大学における「学園都市化構想」の支援を行う。 ○鳴門教育大学附属高等学校の開校を行って全国から優秀な受験生を集める。（徳島の東京学芸大学附属高等学校にする） ○鳴門市高島周辺地域を小田急小田原線沿線の「成城学園前」と「玉川学園前」の学園都市にする。 ○鳴門教育大学が大学院の前期の修士課程を含めた六年間一貫制に基づいての質の高い教員養成の大学教育を行う。

計画等名	意見聴取方法	意見内容
「vs東京『とくしま回帰』総合戦略	パブリックコメント	○文武に優れた人材を養成すべきだ。 ・全国学力テスト小学生正答率（2014年）は64.2%で全国41位。香川は10位で68.1%、高知は20位で66.6%、愛媛は22位で66.3%。これは毎年１%上げて行けば四国でトップになれる。頑張ってもらわなければいけないのは生徒たちより教職員である。 ・徳島県は人口1000人当たりの教職員数は11.75人で全国３位である。徳島より成績の優れている香川県9.96人。成績で下位争いをしている高知が12.35人で全国２位､学力トップの秋田県は10.58人で13位である。それに比べると徳島県は、やはり人ばかり多くて教え方がまずいと言えるのではないか。その証拠と言っていいかもしれない数字がある。少し古いが学習塾の軒数は463軒（09年）で全国１位である。小学生通塾率（14年）は54.9%で全国３位。中学生通塾率（同）は63.8%で全国15位といずれも高い。親は教育熱心だが、教師を信用していない現れではないか。それなのに学力テストが下位なのはどこに問題があるのか、原因を解明して今度の戦略に生かしてほしいものです。 ・小学生の新聞購読率（14年）は59.4%で全国３位と高いのに中学生になると45.6%、同10位と下がってしまうのは惜しい。本来は社会的関心度が高まって購読率が高くなると思うのにそうなっていない。学校での教え方に問題がありそうである。新聞を読みこなす能力を小さいときからつけることが、社会での飛躍につながると思っています。 ・体力について，先のランキングによると男子小中学生肥満率（10年）は13.55%で全国２位。女子も11%で同じく２位である。男性肥満率も40.1%で全国５位であるから徳島は運動不足人間の集まりになっているようだ。年間晴れ日数（10年）が2092.9時間と全国２位というのに何をやっているのか、不思議である。 ・図書館の蔵書数（10年）3579863冊で全国３位というのに中学生の図書館利用率（14年）は39.4%、全国37位と低い。宝物が生かされていない。 ・女子小中学生体力テスト（10年）は49.49ポイントで全国42位、男子小中学生体力テスト（10年）は46.21ポイントで全国43位。もちろん男女とも四国の最下位である。これでは国体に勝てない。彼らが国体選手適齢期になるのだから・・・ 　このように徳島県の義務教育は文武両道で四国の中ですら劣っている。これを何とかしないと徳島県の将来は危うい。数値目標を立てるならこういうところに着目して具体的な改善方策を考えてほしいものです。
		◯徳島県と徳島県教育委員会が一体となって県立高校の学力向上を推進する。 ・「徳島県立徳島科学技術高等学校」対「東京都立科学技術高等学校」との公立の科学技術高等学校の学校対決を行う。 　→（「徳島は宣言する！VS東京」の取り組みの一環） ・「徳島県立徳島北高等学校」において外国語教育を強化する。 　→（東京外国語大学、上智大学外国語学部、国際基督教大学にたくさん合格者を出す。） ◯徳島県と徳島県教育委員会が一体となって平成28年4月の徳島大学工学部から理工学部への改組を視野に入れて、県内の公立小学校の算数と理科，公立中学校の数学と理科、公立高校の数学・物理・化学・生物・地学の基礎学力並びに応用学力の学習能力の向上に力を入れる。
	挙県一致協議会	○英語をはじめ外国語教育を強化し、（外国人誘客を担う）人材の育成を。徳島を「英語県」に。
		○上勝町には若い人もやって来るが、住宅や教育の受け皿も必要。仕事があるだけでは難しいと実感。
		○どういう教育するか、どういう人を育てるかの仕組みづくりを。チェーンスクール、パッケージスクールなどの先進的取組のアピール。
		○「ひとづくり」では、小さな小学校、中学校、それから大学生、企業、それから生涯教育というのを一貫的に考えることも必要 ○山間地の学校の統合問題，単に数が少なくなったから統合するのではなく、小さいけれども、放課後の教育やスポーツも英語もできるような小さな拠点を作っていく。
		○小学校区の良い所に人が集まり、地価も高くなる。人を集めるには教育力に力を入れること。「徳島は教育にこれだけ力を入れてます」というのが人を集めるひとつの力。
		○徳島の魅力を教えるような教材づくり。
		○「ふるさとを誇りに思う」色々な継承事業、ふるさと教育等を子どもたちに行うことが将来有効なのではないかと思う。
		○進学時と卒業時が若者の選択のポイントとなり、国も出口・入口の施策を打ち出している。他大学とも連携し、民間とも取り組んでいきたい。
		○小中学校においては、義務教育ということでスクールバス等のいろんな手当があるが、高等学校も一定規模の再編等がこれ以上できないという状況になっている中で、自宅からの通学を確保するためには、高校生の通学手段の確保といった交通インフラも含めて、支援が必要。

計画等名	意見聴取方法	意見内容
「vs東京『とくしま回帰』総合戦略	挙県一致協議会	○徳島の良さというのを、自然とか、食べ物とか、町並みというような歴史も含めた教育が必要だと思う。
		○働きやすい企業、例えばワークライフバランスが非常にできていて、子育てがしやすい企業をもっと子どもたちにもＰＲしていく。中学生、高校生に、地元にはこんないい企業があるんだということで、例えば職場見学をしたり、そういった先輩のお話を聞いたりというようなことが必要
		○大学進学とか就職といったことは、若年期のライフステージにおいて、居住地選択を行わなければならず，かなり大きな人の移動が関わってくる。それに加えて、子どもたちにどういった教育をしていきたいとか、どんな環境で育てたいという幼少期の教育の充実が多くの人を惹きつける要因と考えている。地方における教育機関が担う役割はかなり大きくて、より魅力的で徳島独自の教育題材というのを築いていく必要がある。
	若者クリエイト部会	○「県立高等学校“環境防災科”の設置－四国初の環境防災を学ぶ教育機関の設置－」 ○「学校教育に組み込む“防災学”－算数・国語・理科・社会・英語＋体育・家庭科・技術・防災－」 →防災を正しく学び、知識を得、行動できる次世代の教育は非常に大事。義務教育に“防災”を付け加える。
		○高校生を対象にした調査での「大学進学、就職まではイメージできるが、その後の結婚、出産、子育ては全然想像できない」という結果を踏まえ、少子化対策として、小学校の頃から「結婚、出産、子育て、人生のライフプランを理解できる教育」を始めるべきではないか。
		○【幼少期からの一元的なファミリー教育の充実】･･･小中高校の一元的なファミリー教育により、結婚、出産、子育てまで想像可能。多様な家族の在り方、働き方、子育て環境が整っていることを理解。高齢出産に伴うリスクに関する正しい知識を理解。→以上により「早期の結婚・出生率が向上！」
		○幼稚園・小学校の児童・生徒の【将来あるべき姿】と「講じるべき施策］として、 ・【子どもらしい、おもてなしの心を育んでいる】→「幼稚園・小学校における『みーんなで、おもてなし！会』の開催」･･･「おもてなしの心」を学び実践する会を県内すべての幼稚園・小学校で開催し地域全体でサポート。 ・【子どもたちが地域での遊びや活動に積極的に参加し、郷土愛を育んでいる】→「『とくしまっ子！地域のお祭りスキスキ！』イベントの開催・環境整備」･･･地域のお祭り等に子どもたちが積極的に参加、楽しむことができるよう、子ども目線での楽しい演目の追加、行事を開催。 ・【農林水産業の体験をしたことがあり、その楽しさと苦労を知っている】→「『農業・林業・水産業！み一んなが知っているよ！徳島！』の開催」･･･現状の取組をベースに体験内容を充実、回数を増やし、県内すべての幼稚園・小学校で実施。
		○中学生・高校（・小学校）の生徒の【将来あるべき姿】と「講じるべき施策」 ・【おもてなしの心を育んでいる】（幼稚園・小学校と同様）→「〇〇市（町・村）マイスター！」「とくしマイスター！」の認定･･･各市町村、徳島県のことを学習し、検定試験に合格した中高校生にマイスターの称号を与える。 ・【小中高生が地域貢献を実践するための知識を有し、活躍の場がある】→「『徳島！本気！職場体験！』の実施」･･･何日間かにわたる企業・団体での職業体験。「『徳島の仕事のことまるわかり辞典』の制作・提供」･･･多くの地元企業・団体の仕事について理解できるよう、テキストや映像を制作・提供。 ・【国際的に活躍する子どもたちが多い】→「『東新町西新町・徳島の交流街』をつくり、盛り上げる」･･･国際的に活躍する人材育成のため、空き店舗等を利用して様々な国籍の人々が交流できる場を設けイベントを開催。
		○特別支援学校の児童・生徒の【将来あるべき姿】と「講じるべき施策」※「幼小中高の児童・生徒」に加え、以下のことを実現 ・【個性を光らせ、自ら発信できている】→「『徳島の若者、この人！この取組！知ってね☆キャンペーン！』の実施」･･･特別支援学校、幼小中高校に通う児童生徒がお互いのことを理解し、個性や能力を認めた上で、徳島の若者では「この人！」、「この取組！」と徳島の光を互いに見出すことができる教育（交流）を実施。協働の取組も実施する。それを前提に、若者たちが交流できる場を創出し、それぞれの意見を聴き、それを発信できるシステムを構築。高等教育機関でも同様。
		○大学・専門学校など高等教育機関の学生の【将来あるべき姿】と「講じるべき施策」 ・【自らが主役・主取組であることを認識し、それらを活かすことができている】 ・【文系・理系の別なく、それぞれの学びに自信を持ち世界で活躍している】→「『トクシマ若手専門家からの発信！みんなでトクシマSHOW！』の実施」･･･全国に先駆け、多様な分野の若手研究者・学習者が入り交じり、自らの研究学習成果を一堂に発表できる場を創出。

計画等名	意見聴取方法	意見内容
「vs東京『とくしま回帰』総合戦略	若者クリエイト部会	○働いている人・高齢者の【将来あるべき姿】と「講じるべき施策」 ・【地域の大人が地元市町村や徳島県をよく理解し、子どもたちに伝えられる】→「『○○市（町・村）マイスター！先生』『とくしマイスター！先生』の育成」･･･「とくしま学博士」認定者で構成されるマイスター先生を育成し、子どもたちへの教育、マイスター検定の問題作成等を行う。 ・【学びたいときに学びたいことを学びたいだけ学ぶことができている】→「『徳島学び発信BOX』の提供」･･･県民の学びへのニーズを把握するシステムを構築し、学びに関するテキストや映像の作成、情報発信を行う。
		○【みんなが地域社会と関わり、いきいきとした生活を送っている】→「『ネットの弊害、先進的に解決するけん！』の宣言とそれに係る教育の充実」･･･インターネットによるいじめや犯罪、ニートやフリーターの問題を先進的に解決するため、幼少期からの取組の充実を図る。「ネットの弊害、先進的に解決するけん（県）！」を宣言し、ネット環境から生じる弊害の解決に先進的に取り組む心の醸成を図る。いじめや犯罪については、その卑劣さを教育するとともに、それらを見守り注意できるような社会の醸成を図る。
		○【地域で取り組む・地域から学ぶ社会の実現】【家庭教育充実のための環境整備ができている】→「『地域が先生』をモチベーションに地域一丸となった教育の実施」･･･様々な立場の人が地域と関わることができる機会、家庭教育充実のため親世代が親としてすべきことを学ぶことができる機会を提供。

教育に関する県民の方の意見（新未来「創造」とくしま行動計画）

資料５－２

計画等名	意見聴取方法	意見内容
新未来「創造」とくしま行動計画	パブリックコメント	○「海の里山」や「山の里山」の地域資源で地域の自立を促進する（関西地域の小・中学校の「臨海学校」や「林間学校」の誘致、高校や大学の「スポーツ合宿」の誘致、首都圏のICT企業の「ICT合宿」の誘致に力を入れる）
		○児童・生徒が健康に過ごすためには、１にも２にも野菜を食べることを小さい時から教える。又、老人に野菜作りを要請して、県側で空き地を畑にすることで、自然も多くなり、野菜も安価になり、野菜が食べやすくなる。
		○夕方までみてくれる幼稚園を設置し、幼稚園入園を義務化する。最終的には幼稚園と保育園を一体化させる。
		○幼稚園・保育所が老人ホームと一緒になり、お年寄りにとっては子どもと接することで生きがいや楽しみが生まれ、子どもにとっても親からは学べないようなお年寄りならではの知識や昔の遊びを知ることができる。
		○学力テストでもひけをとらないよう基礎的学力を向上させ、国際社会にも通用する英語教育にも力を入れていく。
		○徳島県が教育の振興を行い、全国有数の進学校と肩を並べるような高校を創設する。
		○人口減少社会に対応するためには、これからの人づくりに予算を集中的に投入するべき（教育環境の充実）。
		○県と教育委員会が一体となつて「食の地産地消」に基づいての「徳島県立小松島西高等学校・食物科」による生徒が運営する「高校生レストラン」の開店を支援する。
	わくわくトーク	○徳島を元気にするには、それぞれの地域の人たち，子ども達が地元の自然、風土、伝統文化、歴史を良く、知って、その重要性に気づくことが一番大切、これにより、一度は県外に出ても帰ってきたいな、と思える徳島づくり、「宝の島・徳島」を創るヒントになる。
		○自分の子どもが学校に行きだした時に教育はちゃんと受けられるのか、友達はできるのか不安で、少子化の対策をよろしくお願いしたい。
		○留学生や海外から来られている人にバスツアーや料理教室を通じて、気軽に地元徳島の産業体験や文化体験ができる取組を
		○外国人のための日本語教材をもっと分かりやすくバージョンアップした方がよい。
		○英語表現を取り入れた人形浄瑠璃を習っているお子さんたちには10年後、19年後の民間大使になってもらいたい。
		○徳島の自然豊かなふるさとを愛し、子どもたちにその素晴らしさを伝えるとともに、未来あるたくさんの子どもたちに自然体験プログラムを通して多くのことを感じとっていただきたく、今後もスタッフ一同でがんばりたい。
	若者クリエイト部会	○保健士さんによる高校生調査での、「大学進学まではイメージできるが、その後の出産、子育ては全然想像できない。」という調査結果を受け、小学校の頃から、「結婚、出産、子育て、人生のライフプランを理解できる教育」を始めるべきではないか。
		○全体的に早期結婚、出生率向上のためには、高齢出産に伴うリスクをはじめ、結婚、出産適齢期などにかかる正しい教育を小学校から実施する必要がある。
		○スウェーデンのように、育休後、保育園に入るまでの1年半のうちに、行政が保育所整備を責任持って行う施策を希望 ○小１プロブレムを学校と家庭が協働してサポートする体制の構築を希望
		○幼稚園・小学校の児童・生徒は「子どもらしいおもてなしの心を育んでくれたらいい（元気良い挨拶の習慣）」「地域での遊びや活動に参加し、郷土愛を育む」「苦労と楽しさを知る農林水産業体験」
		○中学生・高校生、小学生は、前述の「おもてなしの心」、最近の若者の志向を考慮し「地域貢献を実践するための知識を有し、活動の場がある」により、どう地域に役立つか、そのメカニズムも含め正しい就職選択の意識付けにも役立てる。「地域マイスターを認定し、世代を超えた交流を促し」、また、「徳島の仕事まるわかり辞典を発行し、多くの職業体験に近いメニューの用意」「牟岐町英語村の常時開設版の実施でいつでも気軽に英語で話せる場づくり」
		○特別支援学校の児童・生徒は「個性を光らせ、自ら発信できている将来」ということで子ども同士がお互い認め合って協働の取組体制を取るために「徳島県人名鑑」のような得意分野を載せ、お互い認め合い協働作業する。
		○大学・専門学校生は、「自ら主役・主取組であることを認識し、活かす」ため自分の専門を活かし地域や家族のもうけに貢献したり、若手発表会を自分らだけで主催するなど体験して、人生の次のステップに取り組む自信にしてもらいたい。
		○働いている人・高齢者は、「地域の大人が地元の市町村や徳島県をよく理解して、子どもたちにちゃんと伝えられる」「学びたいときに学びたいことを学びたいだけ学ぶことができている」

計画等名	意見聴取方法	意見内容
新未来「創造」とくしま行動計画	県内高校生	○徳島大学が入学後の教育を強化し中四国で１番の大学になれば、他県の学生も魅力を感じ、国内外から優秀な学生や研究者が集い、さまざまな研究開発が行われる。
		○留学機会が増え、グローバル社会で活躍する人材を輩出するため、外国との交流の機会を学生に与えて欲しい。 ○幼少期から全ての県民が世界を体感して、グローバル社会での活躍へと結び付くこととなる。県も活動したり、他機関に働きかける。
		○マイクロ水力発電や太陽光発電など発電機を小型化・地域密着型にする。小学生から高校生をはじめいろいろな人に講義し、人力発電を用いたエネルギーの重要性やコストなどエネルギーに対する関心を高めてもらう。
		○さまざまな病気や怪我の治療が可能な高い技術を持つ病院を作るため、医療に興味を持つ子どもを育て、高齢社会に伴う医療技術の重大さや倫理なども意識させていく。
	県内大学生	○外国人が社会に溶け込むように、海外の国々を総合的に理解（言語文化、歴史経済、科学、宗教など）するとともに、日本についても同じような教育と、自ら日本や外国のことを発信・受信していく。
		○高校生や大学生での海外留学は非常に良い経験となるので、短期のプログラム（夏休み、冬休みに気軽に行けるような）も、高校生のために学校全体で行っていくべき
	県外大学生	○幼児、小学生期の語学学習機会の増加が必要であり、そのためには、親たちが主体的に興味を持って語学学習をしてゆき、その姿勢を子に見せてゆくことが、海外で活躍する人材を輩出するための大きな一歩ではないだろうか。（自分の小学生時代の不満のため、このような記述になった。）
	フェイスブック	○ケンブリッジ徳島分校・ハーバード徳島分校などができたら国際化の時代に対応するのでは。留学しなくとも語学の勉強はできるし、親の負担も減ると思いますが。

事前にご提出いただいた意見

竹 内 委 員

　これから徳島・日本の子供たちが世界で生きていくには、目的・目標・ゴールを早期に明確化した上で、自発的・積極的に学習に取り組むことが必要と考えます。
これを推進するために以下を提案します。
小学生、中学生、高校生をメインターゲットと想定しています。

■職業体験
・将来の選択肢が多岐にわたる事を子供たちに知ってもらう
・自分たちの将来像が早期に描けるようになる
・徳島は1次産業・2次産業も多いので幅広く体験してもらえる
・民間企業や民間団体を講師に招いて授業をしてもらう

■ビデオ教材・オンライン授業
・30人一斉授業では平均的な教育になってしまう
・その科目で優秀な子供が退屈である、機会損失している
・その科目が苦手な子供はついていけない、諦めてしまう
・レベルに応じたビデオ教材で学習を行う
・必要に応じてオンラインで教師と質疑応答を行う
・過疎化による教師不足にも耐えらえる、遠隔地でも同等の教育を受けられる
・個別指導塾では既にやっている事を学校にも取り入れるだけ

■創造力・発信力を育成する授業
・ビデオ教材・オンライン授業により教師の負担は軽減される
・人間性やコミュニケーション能力の育成に注力できるようになる
・特に必要なのは、自分で考え、自分でまとめ、人に伝え、人と議論する力であると考える
・この内容に特化した科目を設ける
・徳島の個性を題材とした授業内容にする事もできる

■科目別飛び級制度
・科目別に飛び級制度を設ける
・ビデオ教材・オンライン教育でレベルに応じた教育はある程度可能
・その範囲を超えてずば抜けた才能を持った人材をピックする・認定する
・専門性の高い大学に早く入って才能を磨いてもらう
・「学年」という単位を根本から見直した方が良いかもしれない

岡 田 委 員

■基礎学力の習得と社会性
　自ら考えて行動する力を養う。
　親や教師が児童の自主的な学習を支援し、人と同じことをしない。

■生涯学習の支援と社会教育
　都市部での学習に合わない生徒は徳島の自然に触れあう農林漁業への就職や自然との学びの場を提供する。
　特に髪の毛の色や勉強の不出来に関わらず、積極的に自然と触れ合う機会を持たせる。

■地域コミュニティーとの連携
　地域は児童及び生徒の多様性を受入れ、個性を育てる大らかな気持ちを持ち、よそ者を排除しない。